

# アメリカ合衆国選手団 トレーニングキャンプ

トレーニングキャンプの概要

キャンプ期間中の交流

大蔵総合運動場で、アメリカ合衆国選手団のトレーニングキャンプが実施され、オリンピック、パラリンピックとも、多くの選手が利用し、メダルを獲得しました。

キャンプ期間中は、関係者以外の立入を禁止、シャトルバス等の専用車両での選手輸送、スタッフの健康チェック、スクリーニング検査や会場の消毒等、徹底した感染防止対策を行い、感染者を出すこと無く終わりました。

# トレーニングキャンプの概要

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が1年延期となり、アメリカ合衆国選手団のキャンプも1年延期での実施となりました。国や組織委員会が定めるガイドラインにより、選手をはじめ海外からの大会関係者は厳しい行動制限が課せられ、行動範囲は宿泊場所、練習会場、大会会場のみで制限され、公共交通機関の使用も禁止されました。大蔵総合運動場でのアメリカ合衆国選手団のキャンプも、感染リスクを最小限にするよう厳しく管理されたうえでの実施となりました。HPC(ハイパフォーマンス・トレーニング・センター)として、トレーニングの他に、コンディショニング、スポーツメディカル、食事など、幅広い機能を持ち、延べ3600人以上の選手団が利用する大規模なものとなりました。

## ●期間

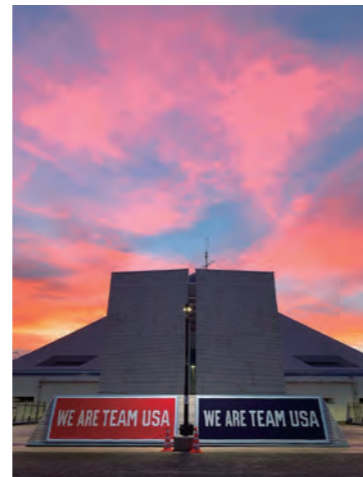
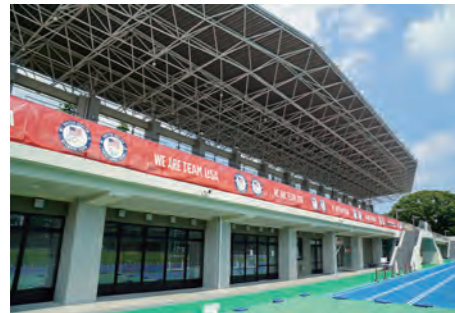
オリンピック:2021年7月4日~8月16日    パラリンピック:2021年8月17日~8月28日

## ●利用種目

ソフトボール、フェンシング、競泳、トライアスロン、マラソンスイミング、アーティスティックスイミング、水球、トランポリン、体操競技、新体操、バレーボール、ビーチバレーボール、サッカー、ラグビー、空手、テコンドー、柔道、陸上競技、近代五種、アーチェリー

## ●利用人数(コーチ・トレーニングスタッフを含む)

オリンピック期間:延べ**3417人**    パラリンピック期間:延べ**203人**  
 ※オリンピックチームは336人がキャンプを利用し、その中144人がメダルを獲得



## オリンピックチーム

### ●セキュリティ

選手との接触を避けるため、7月4日から8月16日まで大蔵運動公園の一部と運動施設をフェンスで封鎖し、エリアの境界に4か所のアクセスポイントを設置しました。アクセスポイントにはUSOPCが契約した警備業者が配置され、通行証の提示等で出入を管理しました。また、公園外周は警察が24時間警備を行い、世田谷区職員も会場に常駐しました。選手は選手村を往復するシャトルバス等を利用しキャンプ会場を訪れました。



## ●キャンプ会場

### (1)大蔵第二運動場体育館

体育館半面にラバーマットを敷き、アメリカ合衆国から持ち込んだウェイト器具等トレーニング機材を設置しました。

もう半面はフェンシングの専用練習会場として使用しました。



### (2)大蔵第二運動場2階

施設にあるトレーニングルームの機器を全て運び出し、メディカルルームとしてスタッフが選手へのマッサージやメディカルケアを行いました。2階入口のロビーにはソファやクッションを置き、選手のリラクゼーションルームとして使用しました。



### (3)野球場

ソフトボールチーム、ラグビーチームの練習会場として使用したほか、陸上長距離選手のランニングコースの一部としても使用しました。



#### (4) 陸上競技場

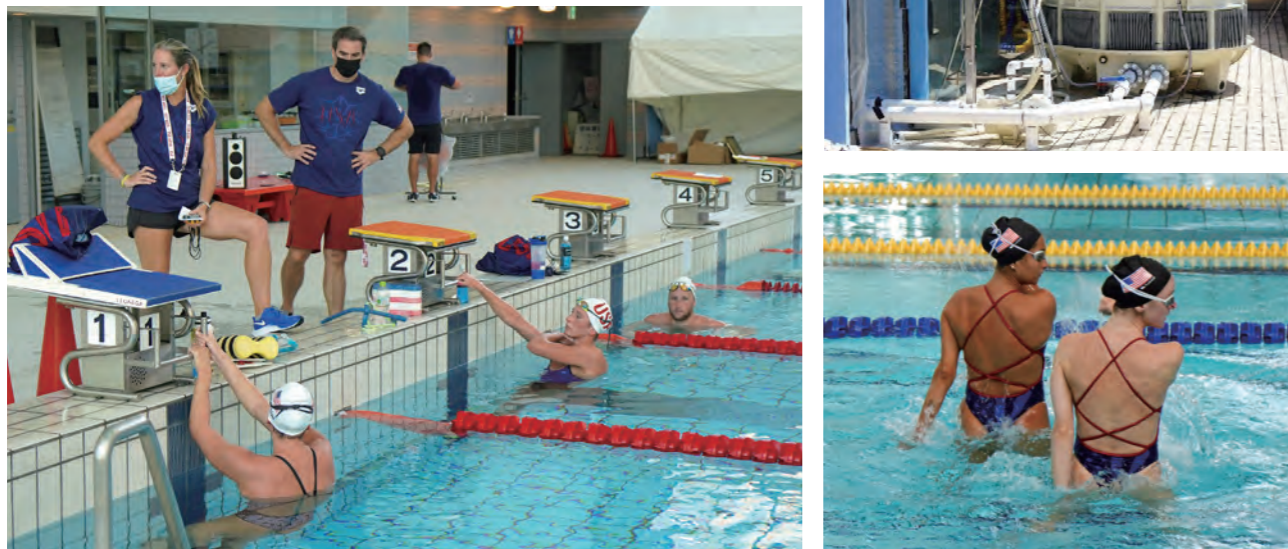
陸上競技場では、アーチェリーチームと陸上チームが使用しました。陸上チームからは、総勢120人と最も多くのオリンピック選手が訪れ、そのうち37人がメダルを獲得しました。陸上競技場内にある会議室にはベッドを設置し、リハビリ室として使用しました。また、ロビーにはルームランナーが設置されました。アーチェリーチームはフィールド(芝)に的を設置し練習を行いました。



#### (5) プール

競泳、水球、アーティスティックスイミング、トライアスロン、マラソンスイミングの練習会場として使用しました。また、女子サッカーチーム等がリハビリとして使用しました。

プールの水の冷却機能がなく、夏場は水温が高くなってしまったため、USOPCが冷却器を設置しました。



#### (6) 大蔵総合運動場体育館

バレーボールコート用のラバーマットを半面に敷き、男子・女子バレーボールチームの専用練習会場として使用しました。バレーボールチームは、競技団体の中で最後までキャンプを利用し、女子チームは金メダルを獲得しました。



#### (7) 大蔵総合運動場内道場

大蔵総合運動場にはフローリング2室と畳1室の武道場があり、柔道、テコンドー、空手の選手が利用しました。フローリングには空手マットを敷き詰め、空手はオンラインで指導者と選手がやり取りをして練習を行いました。テコンドーはアメリカ合衆国として初めての金メダルを獲得しました。



#### (8) レストラン

USOPCが6月にレストランの厨房を改修し、新しい機器が入り、キャンプ後は世田谷区へ寄贈されました。コロラドスプリングスのオリンピックトレーニングセンターで食事を提供しているスタッフが調理を行い、レストランは昼と夜の食事提供で、キャンプ期間中に3348食、選手用に約6トンもの食事が用意されました。大蔵第二運動場のレストラン以外に、プール棟にあるレストランも使用しましたが、調理は大蔵第二運動場の厨房で行い、プール棟は食事を温めるのみでした。テーブル、椅子はUSOPCが持ち込み、感染症対策として間隔をあけて設置し、食後は使用されたテーブルの消毒をスタッフが行いました。メニューは日替わりで脂質の多い揚げ物はなく、選手が取りすぎないようお盆は用意せず、皿に希望する料理をスタッフが提供しました。

キャンプ終了後、余った食材・飲み物・お菓子は区内児童養護施設、児童相談所一時保護施設、社会福祉協議会へ寄付されました。



## ●感染症対策

東京2020大会プレイブックに基づき、キャンプ会場内の消毒の徹底、飛沫対策、換気、三密回避の対策をUSOPCと世田谷区で行いました。選手利用開始前の時期にUSOPCの清掃担当者がオリエンテーションを行い、USOPCが用意した消毒液や、スプレー式の清掃道具を使用し、共用部分の定期的な消毒、競技団体の練習毎後の清掃・消毒を行いました。また、キャンプ会場へ入れる関係者を限定し、全員が健康観察の記録や接触アプリの使用のほか、選手とUSOPCスタッフは毎日検査を行い、一定の接触が見込まれる日本人スタッフもスクリーニング検査を実施し、日本人スタッフ、キャンプの利用者に陽性者は発生しませんでした。



## ●アメリカ合衆国キャンプボランティア

アメリカ合衆国キャンプの補助をするボランティアを採用することでUSOPCと合意し、18歳以上、日本語と英語が話せ10日以上かつ8時間以上従事できることを条件に、2020年3月に52名の方が決定しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、選手と接触する人数を最小限にするため、12名に人数が見直されました。ボランティアの活動期間は7月10日から8月9日、8月21日から8月27日で、キャンプ会場の準備片付け、ドリンクや氷の補充、練習会場の準備、選手のIDスキャン、レストランスタッフの補助を行いました。アメリカ合衆国のスタッフは、行動制限が課せられていて買い物が出来なかったため、ボランティアにお菓子やお土産の購入を依頼し、ボランティアスタッフはお土産選びを楽しんで引き受けていました。ボランティアとUSOPCの友好関係はとて深まり、ボランティアから寄せ書きした色紙やプレゼントがUSOPCへ贈られました。



## パラリンピックチーム

パラ陸上チームは、陸上競技場のみを使ってトレーニングキャンプを行いました。

陸上競技場のトラックでは車いすレーサー、義足、ブラインド、フィールドでは走り高跳、走り幅跳び、投てき種目と、様々なカテゴリーの選手の選手達が利用しました。投てきは体を固定するため地面に杭を打ち、いすを固定して砲丸や槍を投げていました。

陸上競技場内の会議室は、半面をトレーニングルームにし、もう半面はマッサージ台を設置しコンディショニングを行う部屋として活用しました。



# キャンプ期間中の交流

## ●アメリカ合衆国選手団お出迎え式●

当初、キャンプ会場内で子ども達による歓迎セレモニーを行う予定でしたが、キャンプ会場を関係者以外の出入りを制限したため、区長や議長など代表者とUSOPC関係者に出席者を限定して実施しました。区内の小中学校の協力で作成した、選手へ向けた子ども達の応援動画の鑑賞や横断幕をお披露目し、横断幕は選手が最も多く訪れるレストラン入口に飾られました。キャンプ終了後に横断幕はオリンピックギャラリーの展示用にUSOPCがアメリカ合衆国へ持ち帰りました。



## ●メダリスト交流●

2021年8月に開設した世田谷区医療的ケア相談支援センター (Hi・na・ta) のオープニングイベントに東京2020オリンピックトライアスロン混合リレーで銀メダルを獲得したモーガン・ピアソン選手が参加しました。全国で多くの交流事業が中止となった中、世田谷区内で唯一実施された対面式の交流でした。9組の家族と入れ替えで交流をし、選手との会話やメダルの披露、子供へのサインやプレゼントが贈られました。参加した家族からはトライアスロンのレースをTVで見て、頑張る姿に感動してエネルギーをもらった等の会話のやりとりがありました。

- 実施日 2021年8月3日(火曜日)
- 会場 国立成育医療研究センター敷地内  
世田谷区医療的ケア相談支援センター (Hi・na・ta)



気運醸成レガシー  
実現に向けた取組み

幼稚園・学校の取組み

新型コロナウイルス感染症  
の拡大・影響と対策

東京2020大会

アメリカ合衆国選手団  
トレーニングキャンプ

資料編

## ●パートナーシップの継続●

オリンピックチームのキャンプが終了し、パラリンピックのキャンプ実施の中、2021年8月24日にアメリカ合衆国選手団リック団長と保坂区長が対談し、東京2020大会後もパートナーシップを継続し、今後も交流していくことについて確認し、覚書を取り交わしました。



### 〈リック団長から世田谷区へのメッセージ〉

すべての区民の方やスタッフの方々に感謝の気持ちを伝えたいです。皆さんはアメリカ合衆国選手団をととても暖かく迎え入れてくださり、非常に感謝しております。アメリカ合衆国選手団はオリンピック・パラリンピックで大きな成功を収めることができました。皆さんのお力添えなしでは、今回の成功はありえなかったと思います。ありがとうございます。

オリンピックでは300人近くの選手が来てトレーニングを無事にしました。これも素晴らしい設備と皆様のおもてなしの気持ちのおかげです。また、この新型コロナウイルス感染症下での大変な状況において、健康と安全に取り組んでいただきありがとうございます。代表して申し上げますが、この配慮は私達にとって非常に大切なもので、本当に感謝しています。期間中に感染者を出さないよう、我々も注意を払いました。

最後になりますが、パートナーシップは、さらに発展していくものです。こちらにまた何度も戻ってくるのを楽しみにしています。アメリカ合衆国選手団は、永遠に世田谷のパートナーです。私達にとってこれは非常に重要なことで、とても感謝しています。

アメリカ合衆国オリンピック・パラリンピック委員会  
スポーツパフォーマンス及び国内競技連盟サービス責任者  
アメリカ合衆国選手団団長  
**リック・アダムス**